

講演会

2014年3月17日(月)

15:00~17:00

会場：東京大学駒場キャンパス
18号館4階コラボレーションルーム1

19世紀フランスにおける科学・技術的表象、とりわけ居住環境や召使い、食物などを技術的に合成し人工化しようとする主人公ウィティントン少佐の在り方をめぐって

講演者：金森 修

講演者：東京大学大学院教育学研究科教授。
専門は哲学・科学思想史。
著書として『自然主義の臨界』勁草書房(2004)、
『科学的思考の考古学』人文書院(2004)、
『〈生政治〉の哲学』ミネルヴァ書房(2010)、
『動物に魂はあるのか』中公新書(2012)など。

主催：日本学術振興会科学研究費助成事業・基盤研究(B)
「科学の知と文学・芸術の想像力—ドイツ語圏
世紀転換期の文化についての総合的研究」
(研究代表者：鍛冶哲郎)

問い合わせ先：
東京大学大学院総合文化研究科・鍛冶研究室
〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1
E-Mail: wissen@phiz.c.u-tokyo.ac.jp
<http://phiz.c.u-tokyo.ac.jp/~wissen/>

一九世紀ヨーロッパにおける人工世界の表象 —シャルル・バルバラの『ウィティントン少佐』を中心に

